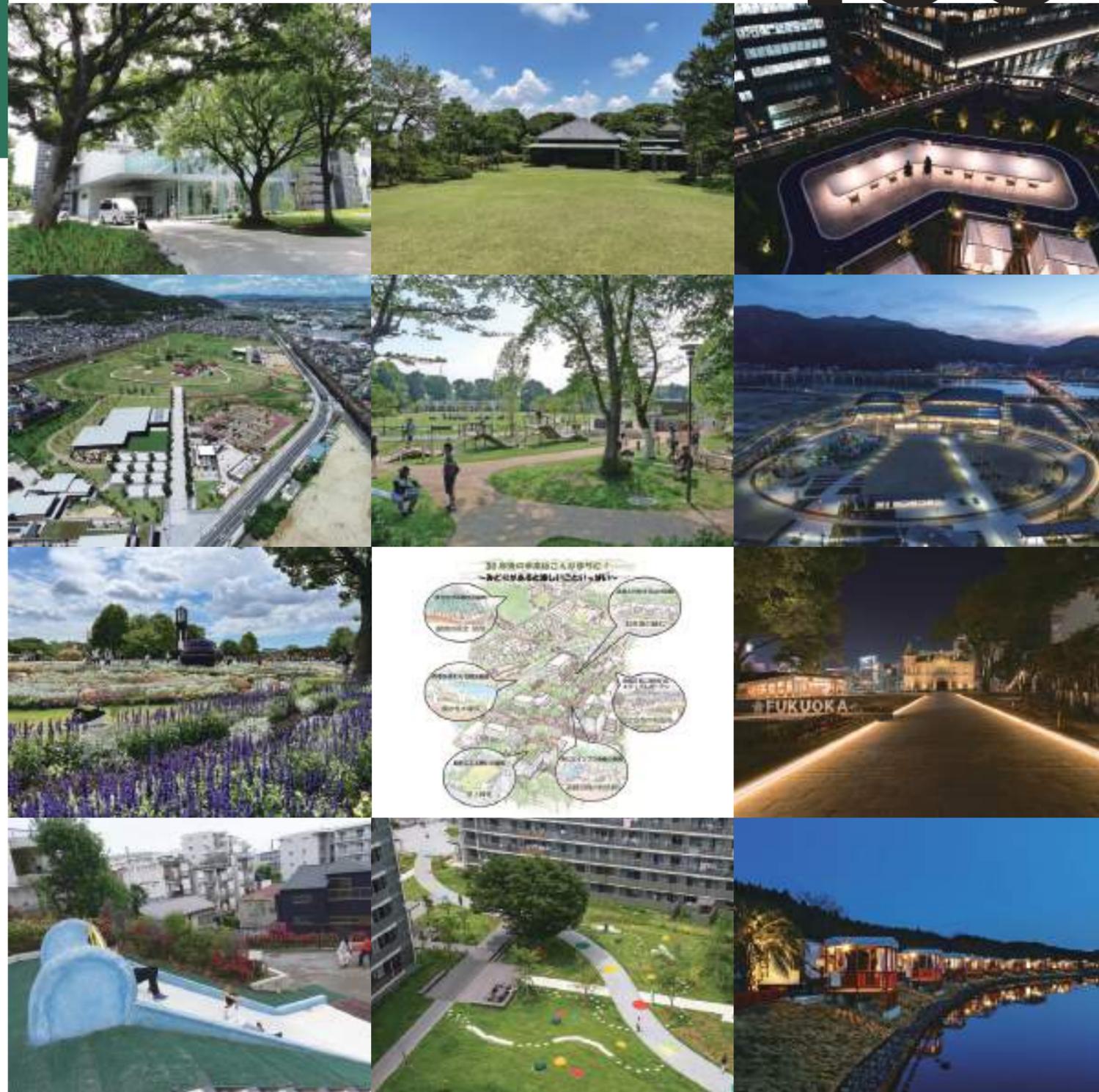


特集 2022年ランドスケープコンサルタンツ協会賞(CLA賞)



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

会 長：金清典広
副会長：金子隆行・宇戸陸雄・大杉哲哉
事務局長：狩谷達之

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8F
TEL：03-3662-8266 FAX：03-3662-8268
HP：https://www.cla.or.jp/ e-mail：info@cla.or.jp

支部事務局

北海道支部 支部長：福原賢二 事務局長：本郷真毅	〒060-0808 札幌市北区8条西3丁目28番地 株式会社ドーコン内 TEL：011-801-1535 FAX：011-801-1536
東北支部 支部長：板垣清美	〒010-0973 秋田市八橋本町4-10-26 株式会社線設計内 TEL：018-862-4263 FAX：018-862-4273
関東支部 支部長：光益尚登	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル TEL：03-3662-8266 FAX：03-3662-8268
中部支部 支部長：三浦利夫 事務局長：石黒茂樹	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-1 中央コンサルタンツ株式会社 内 TEL：052-971-2541 FAX：052-971-2540
関西支部 支部長：西辻俊明 事務局長：津田主税	〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11-1106 株式会社エス・イー・エヌ環境計画室 内 TEL：06-6373-4117 FAX：06-6373-4617
九州支部 支部長：大杉哲哉 事務局長：谷山恵一	〒810-0001 福岡市中央区天神2-14-38 株式会社緑景 九州事務所 内 TEL：092-713-8765 FAX：092-713-8759



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、
人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、
環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、
安全で豊かな環境の創出、
すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1

ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を
継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2

新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、
技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、
技術競争の時代に対応します。

3

社会的信頼を獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、
内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4

開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、
多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5

魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として
広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造 ―造園コンサルタントビジョン―」より



特集：2022年 ランドスケープコンサルタンツ 協会賞 [CLA賞]

最優秀賞

- 【設計部門】
大手町ビル SKYLAB 超高層ビルに囲まれた空中の中庭 2
- 【調査・計画部門】
東京都立松沢病院のランドスケープと長期的な取り組み 4

優秀賞

- 【設計部門】
国指定名勝 戸定邸庭園の復元 6
- 【設計部門】
エフピコアリーナふくやまのランドスケープ 新たな原風景の創出 8
彦山・芦田川の故郷風景に市民が賑う、エフピコアリーナふくやまのランドスケープ
- 【設計部門】
川口市立グリーンセンター 遊育の森づくり 10
- 【設計部門】
安満遺跡公園 12

特別賞

- 【設計部門】
福岡県営天神中央公園 西中州エリア 14
- 【調査・計画部門】
第38回全国都市緑化くまもとフェア くまもと花とみどりの博覧会 16
- 【調査・計画部門】
信州まちなかグリーンインフラ推進計画 18

奨励賞

- 【設計部門】
大谷口二丁目児童遊園 改修整備 20
- 【設計部門】
豊四季台団地(建替) 第IV期エリアのランドスケープデザイン 21
- 【マネジメント部門】
道の駅たかねざわ 元気あっぷむら 22
- CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし 23
- 2022年CLA賞 受賞技術者プロフィール 24

【特集】都市公園制度150周年記念 ～都市公園制度とランドスケープコンサルタント～	29
・「都市公園制度 150 周年記念 ～都市公園制度とランドスケープコンサルタント～」によせて	31
・都市公園150年の概観	32
・CLAと都市公園	34
・公園150年の歴史と計画・設計者の役割	38
・鶴見川多目的遊水地の新横浜公園グリーンインフラ紹介	42
・都市緑地とウェルビーイング	46
・幼児期における自然との関わりの重要性	48
・都市公園での指定管理者の取り組み ～新たなパークマネジメントの展望～	52
・Play for All インクルーシブな遊具と公園	54
・都市公園の未来	58
会員名簿	60

表紙のPhoto Story

表紙デザインは、2022年CLA賞の
受賞作品12点の写真をコラージュ
したもので、都心の中心部から自
然地域まで、そして緑の景から人々
の集う姿まで、新たに創出した景か
ら既存の緑の再整備まで、様々な
写真が集まりました。
人々の生活の質を高め、そのため
の基盤としての緑の空間を保全・
創造していくことがランドスケープと
いう仕事です。これからも私たちの
職能を社会にアピールし、より良い
環境づくりに貢献していきましょう。



最優秀賞

設計部門

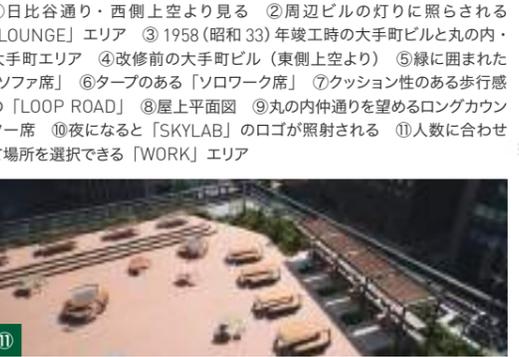
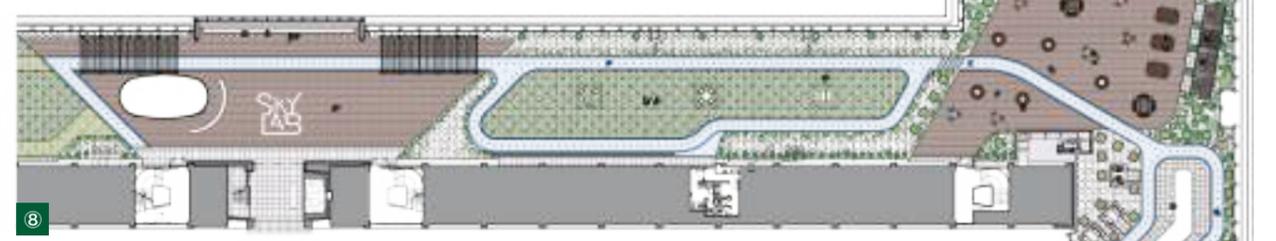


作品概要

作品名—— 大手町ビル SKYLAB
 所在地—— 東京都千代田区大手町1-6-1
 発注—— 三菱地所
 設計—— 三菱地所設計
 設計協力—— ソラ・アソシエイツ
 監理—— 三菱地所設計
 施工—— 大成建設 東光電気工事 第一工業 斎久工業
 設計期間—— 2020年6月～2021年4月
 施工期間—— 2021年5月～2022年4月
 規模—— 屋上改修範囲4,038.83㎡
 主要施設—— WORK/LOUNGE/LAWN/FARMの各エリアと LOOP ROAD

作品評

本作品は、大手町にある高層ビルに囲まれた既存の中層ビルの使われていなかった屋上部を、利用空間として開放したものである。細長い空間をそれぞれのコンセプトに満たした空間にゾーン分けをし、ピビッドカラーで舗装された園路でつないでいる。
 新たな提案はアウトドアワークスペースの提供という、まさに屋上の可能性を広げた、時代性を捉えた提案であり、その内容も、個々のニーズに応じたきめ細かい対応となっている。既存ビルの屋上利用であることから、荷重制限などへの技術的な対応を図りながら、多彩で魅力ある空間に仕上がっている。
 照明と植栽についても、空間毎にきめ細かく対応され、時間ごと、場所ごと、そして利用者ごと、ともいえるような楽しい空間が展開されている。ビルの谷間というマイナスイメージを逆手に取り、ビル街を眺める空間に替えている。選考委員会では、大胆な提案と、それを可能とした丁寧な仕事に評価が集まり、また、説明資料も明確で解りやすかったこと等から、最優秀賞となった。



①日比谷通り・西側上空より見る ②周辺ビルの灯りに照らされる「LOUNGE」エリア ③1958(昭和33)年竣工時の大手町ビルと丸の内・大手町エリア ④改修前の大手町ビル(東側上空より) ⑤緑に囲まれた「ソファ席」 ⑥タープのある「ソロワーク席」 ⑦クッション性のある歩行感の「LOOP ROAD」 ⑧屋上平面図 ⑨丸の内通りを望めるロングカウンター席 ⑩夜になると「SKYLAB」のロゴが照射される ⑪人数に合わせて場所を選択できる「WORK」エリア

大手町ビル SKYLAB 超高層ビルに囲まれた空中の中庭

株式会社三菱地所設計
 飯沼安裕・荒井拓州・安倍泰司・加藤周二・内山竜太郎・庵原弘樹・佐藤琢也・糟谷麻紘

屋上空地のワークプレイス

1958(昭和33)年竣工の「大手町ビル」のリノベーションの一環となる、ビル就業者を中心としたワーカーたちへ向けた屋上空地のワークプレイス化計画である。

通常、屋上に並ぶ設備機器群が、ここでは塔屋と北側にコンパクトにまとめられているため、大手町ビル屋上の南側(丸の内側)には大きな空地があった。竣工当時とは、昼休みに弁当

を広げたり、バレーボールをしたりと、周囲を見渡せる開放的な場所としてワーカーたちのくつろぎの場となっていたらしい。しかし年月の経過の中で超高層ビルに囲まれて眺望が失われていき、すっかりその存在は埋没してしまった。しだいに屋上は、安全管理上の観点から関係者以外立ち入り禁止となり、利用されなくなった。

今回の屋上リノベーションは、この屋上空地を“超高層ビルに囲まれた谷間”とマイナスに捉えるのではなく、“時間の経過によって生成された、現代的で都市的な空中の中庭”とプラスに捉え、屋外利用も可能なワークプレイスとして整備し、この場所を再びワーカーたちに戻すことにした。

選択性のある場所のデザイン

面積にしておよそ4,000㎡、長さ200mにおよぶ広大な空間を4つの場(WORK/LOUNGE/LAWN/FARM)に分け、それらをクッション性のある歩行感の「LOOP ROAD」と名付けた動線で繋いだ。丸の内通りを見下ろすロングカウンター席や、ひとりで集中できるソロワーク席、数段高くして他よりやや独立した小上がりテーブル席、同じビルで働く人との接点を生むコラボテーブル席、皇居を臨みながらチームミーティングできるソファ席を設け、人数や働き方に合わせて好みの場所を選択できるようにした。

既存ビルの改修であるため、新たなデザインは屋上の許容積載荷重の範囲内で検討する必要があった。比較的軽い再生木デッキと、重量のある植栽帯やパーゴラ基礎は、柱梁で囲まれた1スパン単位で下地を含めた総重量を少しずつ微調整し、

全体の線形を決定している。座席の回りにはグリーン・パーゴラで立体的に緑化したほか、100種類の草種を混植し、季節によって生育の変化を楽しめる。既存ビルの改修であるため、新たなデザインは屋上の許容積載荷重の範囲内、つまり柱梁で囲まれた1スパン単位で下地を含めた総重量を微調整し、全体の線形を決定している。

オープンしてから早速、大手町ビル地下の店舗で弁当を買って、屋上で昼食を取るワーカーたちで賑わっている。夕暮れ時には、グループメンバーがぞろぞろとソファ席に集まってきてミーティングをしたり、夜になると人工芝エリアで行われるヨガのイベントに参加してリフレッシュしてから帰宅していく。周りに生かされている副産物のような都市の空間をとことん楽しみ、発見と実験の場所「SKYLAB」として、ますます活用されていくことを期待している。



最優秀賞

調査・計画部門



①

作品概要

作品名——東京都立松沢病院のランドスケープと長期的な取り組み
 所在地——東京都世田谷区上北沢2-1-1
 発注——東京都立松沢病院
 運営管理——メディカルマネジメント松沢
 計画・設計・監修——愛植物設計事務所
 モニタリング——愛植物設計事務所
 施工——東京パワーテクノロジー
 緑地管理——東京パワーテクノロジー
 施工期間——外部空間整備：2009年～2011年
 部分改修ほか：2012年～継続中
 規模——敷地面積 約18.7ha、緑地面積 約8.0ha
 主要施設——(主な建築物)本館診療棟・社会復帰病棟・職員住宅ほか
 (外部空間)樹林地・草地・庭園・加藤山将軍池・駐車場・グラウンドほか

作品評

本作品は、創設143年の歴史を持つ公立総合病院のランドスケープ計画である。
 建物の再整備と緑地の再編が順次進められているが、精神科を主体とする病院であるだけに、敷地の6~7割を占める広大な緑地を、患者の視点に立ってどのように取り扱っていかなくてはならないかが大きく問われる業務である。
 応募者はこの課題に対して、「人工的な街の緑・半自然の里の緑・自然的な山の緑」の3つの緑地ゾーンを設定し、質の異なるこれらの緑が有機的に結びつく新しい緑の構造を示している。
 また、各緑地ゾーンを進める庭園の整備、大樹の活用、雑木林の創出・再利用、桜の更新、憩いの場づくりなどにおいて、様々なランドスケープ手法を駆使した計画内容が示されており、全体として秀逸な作品に仕上がっている。
 加えて、説明資料も文章・図面・写真がわかりやすくマッチングされた構成となっており、これらの点が総合的に評価され最優秀賞となった。

調査・計画部門



①既存大樹を活かしたエントランス ②街・里ゾーンに創出した紅葉庭園 ③里ゾーンの梅林 ④山ゾーンの既存樹林と加藤山将軍池 ⑤景観・保全対象種・コドラートなどのモニタリングを継続 ⑥定期の協働巡回で順応的な植栽管理を実現 ⑦幼木植栽から育成した雑木林も間伐を行うまでに充実

東京都立松沢病院のランドスケープと長期的な取り組み

株式会社愛植物設計事務所
 山野秀規・山本紀久・橋本恵・浦澤柚花・倉田香織・鈴木美枝子
株式会社メディカルマネジメント松沢
 清水律子・有馬武郎
東京パワーテクノロジー株式会社
 池田真悟・小林将史

松沢病院の歴史は古く、明治12年(1879)設立の東京府癲狂院(テンキョウイン)から始まり、現存する公立病院としては日本最古の精神科病院です。2007年に東京都のPFI事業がスタートし、約5年をかけて老朽化した建物の解体と集約・新設が進められ、それと並行して広大な既存緑地の再編を行いました。

緑地の再編では、既存の緑地・土地利用の特性と新たな土地利用特性を重ねて「街」「里」「山」の3つのランドスケープゾーンとコンセプトを設定し、これに沿った自然環境・景観を形成することとしました。長い歴史を持つ病院敷地内には、高木だ

けでも約3400本もの樹木がありましたが、再編は既存樹木や緑地を可能な限り保存しながら行い、建物が集約された後に生まれる空地には、新たな緑地・樹群の創出や既存樹林を改善・補完する植栽を行いました。

一方、本事業の特性として、整備後も運営管理を約15年に渡って行う長期事業であることが挙げられます。そこで「長期事業であることを活かし、再編した緑の“質”の向上を図ること」を、もう一つのコンセプトとして事業に取り組むこととしました。

長期的な取り組みの基礎データとするため、整備前から実施している「景観モニタリング」や「保全対象種のモニタリング」、「コドラート調査」などの基礎調査を継続し、整備後の景観・自然環境の把握と評価を続けています。

この各種基礎調査をもとに、緑の機能や景観、自然環境など様々な面で質の高い緑を実現するため、現地での「協働巡回」を定期的実施して管理内容の調整・最適化を図り、順応的な植栽管理を実現しています。

また、保全・創出した樹林・樹木の更新や経年変化に合わせた改善計画、将来を想定した景観木の補植など、長期的に関わることでしか実現できない様々な取り組みを続けています。

運営管理の開始から10年が経過しましたが、計画段階から続く運営管理者・設計者・管理作業者の協働体制が、これら長期的な取り組みを支えた原動力であったと考えます。

今後も協働体制で取り組みを積み重ね、歴史ある松沢病院の緑を良質な状態で次代へ引継ぎたいと思います。



優 秀 賞

設計部門



①

作品概要

作品名——国指定名勝 戸定邸庭園の復元
 所在地——千葉県松戸市松戸
 発注——松戸市教育委員会
 設計——株式会社ヘッズ東京本社
 設計協力——株式会社クレアテラ
 監理——株式会社ヘッズ東京本社
 施工——アゴラ造園株式会社
 設計期間——2015年8月～2018年3月
 施工期間——2016年9月～2018年3月
 規模——約6,000m²
 主要施設——コウヤマキの列植、アオギリの木立、芝地と芝地の園路・飛石、アカマツの木立、東屋とこの東屋が立地する地形

作品評

本庭園は2つの異なる性質の庭園から構成される。戸定邸南面の洋の東西が融合した書院造庭園と、打ち解けた園遊の場である東屋庭園である。性質の異なる2つの庭園を相互に融合させることで、それぞれの空間を完成させている、これまでに見られなかった新しい日本庭園の様式であり、このことを本庭園の本質的な価値として、この価値を復元することを目的とした。

本庭園の復元は、すでに2人の研究者の研究によって方向性が示されていた。応募者は2人の研究者と議論を重ね、机上と現地での検証を経て、復元のための工事用図書を作成した。この過程は「共同研究」と呼ぶに値する。さらに、復元工事の過程における検討の重要性を発注者に提案して、設計監理業務を受託している。

古文書に基づく検証、土壌調査・古株調査等の科学的手法、樹木の形状・配植等の検証による景観の復元等、科学的かつ審美的な取り組みは、ランドスケープデザイナーの本領を発揮しており、優秀賞となった。

設計部門



②



③



④



⑤

①書院造庭園を庭園南側から望む ②書院造庭園から東屋庭園を望む ③戸定邸庭園全体の復元イメージCG
 ④書院造庭園を庭園北側から望む ⑤東屋庭園を庭園東側から望む

国指定名勝 戸定邸庭園の復元

株式会社ヘッズ 東京本社

福留正雄・加藤修・矢吹克美・加藤茂男

アゴラ造園株式会社

浦川忠郎・清水誠大

本業務は、国の名勝指定を受けたことを契機に実施される、戸定邸庭園の復元のための基本設計と実施設計、そして設計監理を行ったものです。

この戸定邸庭園の復元は、この庭園をつくった徳川昭武らが撮影した作庭当時の大量の写真や残された文献を根拠に実施することを基本としていましたが、庭園の図面がないことや写真

の撮影場所の記録がないこと、作庭時と同じ材料を使用することは困難であることから、古写真に写っている作庭時の姿に似せた形にするのではなく、本庭園の本質的な価値を見出し、この価値を復元することを目的としました。

この本庭園の本質的な価値の復元の方向性については、本業務の実施前から2人の研究者（現・戸定歴史館名誉館長：齊藤洋一氏、現・千葉大学名誉教授：藤井英二郎氏）の研究により、取りまとめがなされていました。

このような前提を受け、本業務では設計者としての視点に基づいた庭園復元のための手法の提案を行い、共同研究者ともい

える立場で2人の研究者との議論を重ね、机上と現地での検証を経て、復元を実現するための工事用図書を作成し、工事段階において設計監理を行いました。

この「共同研究」についてですが、業務としては「共同研究」ではありませんでしたが、今回の応募に当たって発注者に古写真等の使用の承諾を求めたために行った打合せの場で、発注者より今回業務での設計者の立場は「設計者としての知見、技術、思考を庭園の復元にフィードバックした共同研究者」であったとの評価を頂いており、この「共同研究」が本業務の特色と言えます。

なお、復元工事の際の設計監理業務については、不要な樹木等の伐採や移植、造成など、現況が変化していく過程でも復元内容を検討し続けることが重要であると考え、設計者が発注者に提案して受託したものです。

また、戸定邸庭園内の樹木の移植を行うことから、根回しのための時間が必要となるため、工事を2箇年に亘って実施することも発注者に提案し、より良い復元工事とすることを目指しました。



優 秀 賞

設計部門



エフピコアリーナふくやまのランドスケープ 新たな原風景の創出

彦山・芦田川の故郷風景に市民が賑う、エフピコアリーナふくやまのランドスケープ

株式会社現代ランドスケープ
西辻俊明・石井佑介（元所員）
株式会社梓設計
外山博文・石井衣利子
今川建築設計
今川忠雄

競馬場跡地の全体構想「水と緑に包まれた健やか・未来ふくやま創造交流拠点」の先行事業であることを踏まえ、故郷風景に抱かれた体育館・公園を舞台に、多くの人々が集い交流する、

福山の未来を築く先導的役割を果たせる環境形成を目指した。
①「新たな故郷風景をつくる」→山並みや河川空間の雄大な風景と一体となったランドスケープ形成
・これまで親しまれてきた彦山や芦田川の風景に、体育館と公園から生まれる施設や市民の活動が重ることにより、世代間に継承・育まれてゆく故郷風景を生み出す。
・計画地内外に、より多くの市民が楽しめる舞台を設け、背景の自然と市民の活力ある賑い風景が幾重にも重なるシーンを展開する。

作品概要

作品名——エフピコアリーナふくやまのランドスケープデザイン
～新たな原風景の創出～
所在地——広島県福山市千代田町1丁目1-2
発注——福山市
ランドスケープ設計——株式会社現代ランドスケープ
建築設計——株式会社梓設計
建築監理——株式会社梓設計
施工——公園/鴻池組・佐々木建設・三谷建設共同事業体
建築/清水建設・富士建設・松原組(仮称)福山市総合体育館
建設工事共同企業体
設計期間——2015年11月～2017年3月
施工期間——2017年9月～2019年12月
規模——約5.08ha
主要施設——公園/ゲート、休憩所、トイレ、芝生広場、周遊園路、複合遊具、地下調整池
建築/アリーナ(地上2階、建築面積/13870m²、延床面積/50800m²)
クライミングウォール、連絡橋(対芦田川緑地)、大階段、駐車場、調整池

作品評

本作品は、福山市の芦田川沿いに位置する市営競馬場跡地に整備されたアリーナと公園のランドスケープ及び建築設計の業務である。スポーツ体験や健康づくりの場であるとともに市民の交流拠点として整備され、スポーツ・レクリエーションに加えて、周辺との動線的つながりを考慮したウォーキング、家族で楽しむことができる遊びの場やイベント・文化的活動など、多様なアクティビティに対応できる空間構成を実現している。
郷土の風景の中に加わった人工的な施設であることを意識した配置計画とデザイン検討がなされ、応募者が意図したとおり、山並みの連なりや開放的な河川空間を再認識する一体的な風景が創出されている。利用者が移動しながら見える近景づくりも考慮され、多彩なシーケンスを展開している。また、軸線と円形大階段での照明の演出により、河川や道路のラインがアリーナと連続しているように見え、山並みを背景にして浮かび上がる印象的な夜間景観を形成するなど、これらの景観デザインが高く評価された作品である。



①アリーナから芦田川堤防へ至る川辺の風景 ②公園・アリーナが一体となった賑い ③エントランス付近からアリーナ・山並み方面の景観
④スロープ沿いのアリーナ・山並み方面への連続性

②「街と山・川をつなぐ」→街なかから山並み・河川の自然環境まで、一体連続的な活動舞台を形成
・福山市の市街地と背景に広がる山並みや芦田川等自然環境の間を、公園やアリーナ屋上を中心とした市民の運動や楽しみ場のとし、街と自然の一体連続化を図る。
・これら公園・アリーナに、休憩・運動・散策・休憩・観覧・展望等多様な活動の場を設け、いつも市民が自然を感じながら、スポーツ・レクリエーションに親しみ健康や楽しみの活動を繰り広げられることのできる場とする。

③「スポーツに参加し・見て楽しむ」→アスリート～市民の軽運動・遊びまで幅広い交流が生まれるスポーツと楽しみが融合した環境形成
・アスリートによるスポーツから市民による健康運動や遊びまで、幅広く市民が集い楽しむことのできる環境づくりを図る。
・スポーツや遊びに主体的に参加することに加え、観覧をはじめこれら活動の様子を見て楽しみながら、テラスでの休憩・展望等やジョギング等活動を展開できる相乗効果の高い環境を提供する。



川口市立グリーンセンター 遊育の森づくり

株式会社グラック

北川明介・井野貴文・西山秀俊・岸井悠子・藤田芽衣

川口市立グリーンセンターは、1967年に地域の農業（園芸・造園）の振興と都市緑化の啓蒙を目的として設置された総合公園である。

供用開始後約50年が経過し、園内施設の老朽化問題の解決も含め、少子高齢化や都市災害の頻発など、公園を取りまく時代的・社会的条件の変化の中で、次の50年に向けた公園の再興が求められた。本作品は、この活性化計画を具現化することを目的として行った設計施工一体型プロジェクトの成果である。

設計コンセプトとテーマ・デザインの取り組み

川口市からの設計要求事項は、①子育て支援、②環境保全・活用、③防災拠点の3点であった。これらに応え、実現化を目指し、「遊育の森づくり」を公園デザインの基本コンセプトとし、機能的要求に応えるだけでなく、風景として顕在化することを目指して、「公園を地域に開く」「森と人をつなぐ」「まちを支える」の3つのテーマで風景デザインに取り組んだ。

「公園を地域に開く」

地域に開かれた公園として、目に見える景を再構築する必要があると考えた。エントランス広場の眼前に180度水平に広がる芝生広場を配置して、広がりとお行きのある緑の

作品概要

作品名——川口市立グリーンセンター 遊育の森づくり
所在地——埼玉県川口市新井宿
発注——川口市
設計——株式会社グラック
設計協力——〈シェルターデザイン〉浅香信太郎（浅香信太郎デザイン室 一級建築士事務所）
〈昆虫の森整備アドバイス〉彦坂洋信（株式会社地域環境計画）
〈大型構造物構造設計〉蟻坂初二（株式会社企工社）
〈電気設備設計〉渋谷満（エム設備設計）
〈機械設備設計〉森田功（パティウッドデザイン）
施工——株式会社テラヤマ
監理——株式会社グラック
設計期間——2020年4月～2021年6月
施工期間——2020年7月～2022年3月
規模——約2.2ha
主要施設——冒険の森（フィールドアスレチック）、ちびっこ広場（未就学児対象）、いきいき広場（健康遊具）、芝生広場、昆虫の森（森の回廊、バタフライガーデン、ひだまりテラス等）、災害対応施設

作品評

本作品は、川口市立グリーンセンターにおいて、現況の環境を活用した魅力づくりとともに、市が抱える課題である子育て支援や防災の強化に対応するために一画を再整備した業務である。

応募者は、その3つの課題について個々に解決を図るのではなく、複合的な利用用途を検討し、「公園を地域に開く」、「森と人をつなぐ」、「まちを支える」という明快なテーマのもとに、トータルにデザインすることで再整備を実現している。さらに、with コロナやグリーンインフラなどの社会的な動向も踏まえて、対象地の今後のあり方を検討した上で設計に反映されていること、デザインビルドによる設計施工の取組では応募者が中心的な役割を果たしている点なども評価された作品である。

このような一貫した取組により、高揚感あるエントランスと広場、森の環境に調和したフィールドアスレチックや林内をめぐる回廊などが形成され、こどもたちはワクワクする体験ができ、大人も楽しめる魅力的な「遊育の森づくり」となっている。



①森の中につくられた遊び場「冒険の森」 ②エントランス広場の前に広がる芝生広場 ③ハブ空間としての役割を果たす芝生広場
④森と一体となった遊具 ⑤避難時の活動拠点となるシェルター ⑥生きものや植生を観察できる昆虫の森

景を地域に開いた。また、芝生広場は園内の施設と連結するハブ空間（結節点）としての役割を果たしている。

「森と人をつなぐ」

子育ての環境としてだけでなく、都市化が進行する街に暮らす市民にとって、自然との触れ合いはきわめて重要であると考え、敷地に残る地形、植生、水環境などの「地」の資源を活かした自然とのふれあいの場を創り出した。

「まちを支える」

地震や水害などの自然災害が頻発する時代において、水と緑の環境が持つ雨水流出抑制や温暖化の低減、生物多様性保全機能などの環境保全機能を最大化し、地域にとってのグリーンインフラとなる公園づくりを目指した。

2020年4月、新型コロナウイルス感染が広がりを見せる中で始まった設計であったが、2022年1月末に竣工し、同年2月に開園に至っている。5月の連休では公園入口に長蛇の列ができるほどの賑わいを見せ、現在も休日平日問わず賑わいは衰えていない。

このような賑わいを見せる公園であるが、シートを広げ家族団らんを楽しむ風景を見ていると、親と子が語り合い心を通わせる場、そして世代を超えて自然を感じ、癒される場として重要な役割、すなわち「公園の本質的価値」に改めて気づかされる。本設計で得た多くの知見は、公園の管理運営と今後の再整備設計に活かされていくものと確信している。



優 秀 賞

設計部門



安満遺跡公園

株式会社空間創研

家本智・荘田隆久・多田祥子・立花正充(故人)

株式会社地球号

岸田敏・和田威・上田仁

株式会社オオバ

上田哲生・村松雄一郎

中央コンサルタンツ株式会社

山本和光・柴田誠司・長崎浩紀

株式会社 INA 新建築研究所

北伸一郎・村井俊彦・谷口桃子

安満遺跡公園は、高槻市の都心にある JR 京都線と阪急京都線に挟まれた、旧京都大学農学部附属農場を含む約 22ha の総合公園である。その内の約 14ha は、弥生時代の居住域・生産域・墓域が確認され、北部九州の弥生文化がいち早く近畿に伝わったことが証明された学術上非常に価値の高い集落遺跡として、国史跡安満遺跡に指定されている。

市民と育て続ける公園

史跡指定地は文化庁の助成制度を活用した史跡公園、史跡指定地外の約 8ha は UR 都市機構の防災公園街区整備事業を活用した防災公園として、2つの事業が一体となった市の新たな

作品概要

作品名——安満遺跡公園
 所在地——大阪府高槻市八丁畷町
 発注——高槻市・UR都市機構西日本支社
 設計——株式会社空間創研:整備構想・史跡事業エリア基本設計
 株式会社地球号:史跡事業エリア実施設計
 株式会社オオバ:防災公園事業エリア基本設計
 中央コンサルタンツ株式会社:防災公園事業エリア実施設計
 株式会社 INA新建築研究所:防災公園事業エリア建築設計
 設計協力:株式会社LEM空間工房(照明デザイン)
 安満人倶楽部(施工)
 監理——高槻市・UR都市機構西日本支社・株式会社INA新建築研究所
 施工——株式会社富士グリーンテック(史跡事業エリア)、
 大日本永商永大JV(防災公園事業エリア)、大鉄工業株式会社
 設計期間——2012年11月～2018年3月
 施工期間——2016年7月～2021年3月
 規模——約22ha
 主要施設——史跡事業エリア:遺構表現・ガイダンスサイン、農場建物群(展示室、
 休憩室、レストラン、展示館、歴史体験室、多目的スペース、市民活動
 支援スペース兼倉庫)、水田、原っぱ 他
 防災公園事業エリア:パークセンター(公園事務所、市民活動拠点、
 子どもの遊び施設、多目的室)、屋根付き広場、芝生広場、せせらぎ、
 駐車場、商業施設(4店舗)、防災倉庫、市民活動倉庫 他

作品評

本作品は、弥生時代の安満遺跡とその上に展開されていた旧京大農場跡地(建物は国登録有形文化財)の保全活用と、防災公園という異なる目的を融合させ、それぞれの歴史性や必要となる機能を確保しつつ、全体として広大な公園として活用したものである。
 市民と共に育てつづける公園づくりを目指したワークショップや各種イベントの開催と運営、異なる実施設計者をまとめて全体を一体的に仕上げたことなど、丁寧なアプローチと技術的な裏打ちに基づいた、しっかりとした仕事と成果が大きく評価された。
 民間事業者の積極的な導入や、ネーミングライツ・寄付の募集など、経営的視点からの公園づくりにも挑戦しており、こうした大規模公園整備の今後の手本となるものと考えられる。選考委員会では、こうした確かな技術がいかに発揮されたことに評価が集まり、優秀賞となった。



①明るく開かれたメインエントランスと歴史資産空間の居住域に向かうピスタ状のみち広場 ②環濠表現と鳥居による居住域の入口 ③多くの利用が見られるパークセンター前の人工芝広場 ④市民活動によるマルシェイベント ⑤市民活動による生産域での古代米栽培と弥生時代から変わらない山並みの景観

シンボルとなる公園として計画した。「安満遺跡公園整備構想」は、当初から学識者経験者・市民等多様な参画のもと、“市民とともに育てつづける公園”を理念に計画した。

弥生時代から変わらない景観を生かした施設配置

中心市街地に近い西側の都市的空間、史跡指定地を含む中央・東側の歴史資産空間に分け、メインエントランスからのピスタを活かすとともに、弥生時代から変わらない景観として安満山への眺望などの見通しを確保した施設配置とし、周辺の街並や鉄道の車窓からも大きなインパクトを与える新たな修景景観、環境を創出した。

にぎわいや市民活動を支えるしかけ

都市的空間は、本公園の中心となるパークセンターを計画し、公園事務所や市民活動拠点、民間事業者による「こどもの遊び施設」、屋根付き広場等を配置した。

歴史資産空間は、当時の遺構を保存しつつ地形を再現し、米園者が直接触れることをテーマに、居住域の環濠を人工芝の土塁と白砂利で表現し、これらを浮かび上がらせる照明演出とした。長年、市民に親しまれてきた農場建物群(国登録有形文化財)は、これを最大限に活かすことを重視し、レストランや歴史展示館、体験館等にリノベーションし、史跡指定地での多様な利用を創出するように工夫した。

設計部門



福岡県営天神中央公園 西中洲エリア

株式会社エスティ環境設計研究所

澁江章子・井口直・森永咲

yHa architects

平瀬祐子・平瀬有人

株式会社松下美紀照明設計事務所

松下美紀・中村元彦

株式会社エスティ設計

庄司雅之・鳥越宗樹・金子宏和

福岡市の中心部に位置する天神中央公園は、全体面積 3.1ha のうち道路を挟んで東側のエリア（約 2.3ha）と西側の西中洲エリア（約 1.0ha）に分かれている。本作品は PFI 事業を絡めて西中洲エリアのリニューアルを行ったものであり、公園

に隣接する那珂川の水辺空間や公園内に位置する国指定重要文財「貴賓館」を最大限に活かし、天神と博多、西中洲を結ぶ、昼も夜も楽しめる新たなにぎわい拠点の創出を目指した。

貴賓館を魅せる

天神中央公園の東側は、福岡市の交通を支える明治通りに接しており、ここからは貴賓館が正面に見える。都心部に突如として現れる明治の洋館。明治通りを歩く人がふと足をとめて写真撮りたくなるような、貴賓館がシンボリックに見える景観づくりを目指した。貴賓館正面へのビスタを強調し、舗装や緑石、ベンチなどの素材を一つの種類に揃えることで、貴賓館が

作品概要

作品名—— 福岡県営天神中央公園 西中洲エリア
 所在地—— 福岡県福岡市中央区西中洲6
 発注—— 福岡県
 設計—— 株式会社エスティ環境設計研究所：澁江章子、井口直、森永咲
 yHa architects：平瀬祐子、平瀬有人
 株式会社松下美紀照明設計事務所：松下美紀、中村元彦
 株式会社エスティ設計：庄司雅之、鳥越宗樹、金子宏和
 施工—— 造園工事…草寿園、都市造園、西鉄グリーン土木、涼華園、森園芸場、平成緑地建設
 設備工事—— 電友社、筑紫電業、柳電設工業、永和興産、尾形設備工業
 設計期間—— 本計画：2016年10月-2018年3月、
 実施設計：2018年7月-2019年3月
 施工期間—— 2019年3月-2019年8月
 規模—— 面積規模 0.98ha
 主要施設—— 御影石舗装広場（イベント広場）、芝生広場、ロングベンチ、
 福博であい橋改修、旧福岡県公会堂貴賓館ライトアップ照明、
 夜間照明、建築：飲食施設（2棟）、休養施設（1棟）、トイレ改修
 ほか

作品評

福岡市の中心部に位置する天神中央公園の東側の「西中洲エリア」は、Park-PFI によってリニューアルされた。ランドスケープ、建築、照明がそれぞれ役割を分担して設計を行い、応募者は、公園全体の基本計画・実施設計を行った。
 本公園の主役である貴賓館は国指定重要文化財に指定されており、賓客をもてなすために明治 43 年に建てられ、福岡を訪れた方に歴史を伝える施設として活用されている。貴賓館の魅力を最大限高めつつ、賑わいづくりや魅力的な水辺空間づくりを行うことが主題であった。
 「貴賓館を十分に活かしていない」、「入りづらい雰囲気がある」、「水辺の魅力を感じにくい」、という課題に対して、「貴賓館を魅せる」、「まちに開く」、「水辺に開く」をデザインコンセプトとした。貴賓館をどこからでも見ることができ、入り口を改めてまちとつなぐ、開かれた水辺空間をつくるデザインを行った。福岡市の名所の景観を改善し、利用促進、賑わいづくりに貢献した功績が評価され、特別賞となった。



①



②



③



④

①「貴賓館を魅せる」「まちに開く」明治通りから貴賓館を印象的に魅せる ②「水辺に開く」大きな木の木陰で休憩したり、水面に近づいたりすることができる水辺の憩いスペース ③「貴賓館を魅せる」平屋建ての建物の屋根を開放し、そこに上るための階段部も含めて貴賓館をみるための新たな視点場。イベント時には観客席としても利用 ④貴賓館のライトアップによる夜の新たなにぎわいスポットの創出

浮かび上がって見えるようにしている。

貴賓館の周囲は円形のロングベンチを設け、360 度どの方向からでも貴賓館を見ることができるようにした。また、PFI 事業で整備した 3 つの建物のうちの 1 棟は、貴賓館に向けて観客席にもなる階段や屋上を設け、新たな視点場として利用されている。他の 2 棟は公園南側的那珂川沿いに連続的に配置し、対岸から見た際にふたつの建物の間に貴賓館がフレーミングされ、一体感のある風景をつくっている。

まちに開く

公園の東側と西側がまちに対して閉じた雰囲気になっている

のが課題であった。そのため、東西どちらからでも公園に入れるようにし、特に道路に面している西側は全面を道路と連続し、まちに対して開放的な雰囲気を創り出した。

水辺に開く

水辺に向けた飲食施設を設け、屋外には水辺を眺めながら木陰で休憩できるロングベンチを配置している。また、川沿いの転落防止柵は笠木の幅を広く設定し、飲食施設で買った飲物を笠木の上に置いたり、手を置いて水辺に近づいたりしやすいよう配慮している。



特別賞



第38回全国都市緑化くまもとフェア くまもと花とみどりの博覧会

株式会社アーバンデザインコンサルタント

大杉哲哉・福岡李奈・安部あすか

株式会社空間創研

後藤逸成・荘田隆久・野見山志帆・山川弘子・徐蓉

株式会社大揮環境計画事務所

丸山幸・亀井菜々美

第38回全国都市緑化くまもとフェア「くまもと花とみどりの博覧会～THE GREEN VISION 未来への伝言～」(以下、くまもとフェア)は、「森の都」の魅力再発見と「森と水の都」の発信「熊本地震への支援に対する感謝と復興のメッセージ」

「未来への襷～未来へつなぐ、つなげる～」の3つの理念のもと「森と水の都くまもとで花と生きる幸せをつむごう」を開催テーマに、2022年3月19日から5月22日の65日間、熊本市の熊本城公園及び花畑広場一帯、水前寺江津湖公園一帯、貴重な緑が残る立田山の3つのメイン会場を中心に市内及び県下45市町村のパートナー会場で開催されました。

くまもとフェアでは、様々な花と緑の取り組みへの参加・体験、花緑の顕彰を通して、市民や来訪者が熊本の自然環境・歴史・風土を再認識し、度重なる災害から復興する熊本の元気を伝えると共に、更なる協働社会の実現に向け、多様な主体が関

わりくまもとフェアを通して一人一人が「花や緑に囲まれることの幸せ」に気づき、想いを巡らせ、心に芽生えた想いを一人一人の「THE GREEN VISION」として未来につなげることを目指し、熊本地震からの復興のシンボルである熊本城下に広がる「街なかエリア」では、新たな“ハレの場”となった花畑広場と西日本最大のアーケードでの花や緑の展開からこれからの“まち”の姿を発信し、「水辺エリア」では、熊本の水の恵みを象徴する水前寺江津湖公園での水と緑の豊かさを伝える体験型イベントや再整備された熊本市動植物園での上質な生活都市に相応しいに向けた新たな緑の発信拠点となる花緑の展開、

都市に残された貴重な自然緑地である立田山を舞台とした「まち山エリア」では、自然と触れ合う体験型コンテンツの展開により緑の顕在化を図りました。
そして、熊本の自然の恵みをうけ、県内生産者により生産・育苗された花と緑や多様な主体による庭園や花緑の出展作品、多彩な取り組みを通して、未来につながる気づきや豊かな心を育むきっかけを創出したくまもとフェアは、新型コロナウイルス流行の影響が懸念されましたが65日間の来場者は目標を上回る168.5万人を記録し、閉幕後も、開催を契機とした取り組みやネットワークはレガシーとして未来へ引き継がれています。

作品概要

作品名—— 第38回全国都市緑化くまもとフェア
くまもと花とみどりの博覧会
対象地—— 熊本市内3地区
街なかエリア：熊本城公園及び花畑広場一帯
水辺エリア：水前寺江津湖公園一帯
まち山エリア：立田山
発注—— 熊本市・第38回全国都市緑化くまもとフェア実行委員会
主催—— 熊本市・公益財団法人都市緑化機構
計画—— 株式会社アーバンデザインコンサルタント・株式会社空間創研・株式会社大揮環境計画事務所
計画協力—— 株式会社RKKメディアプランニング・TSP太陽株式会社・株式会社グリーンダイナミクス・第38回全国都市緑化くまもとフェア植物調達協議会
計画期間—— 2019年6月～2021年11月
開催期間—— 2022年3月19日～2022年5月22日

作品評

応募者を含む三者からなる共同企業体は、博覧会の3つの理念を踏まえ、3つのメイン会場の計画、設計、監理に取り組んだ。熊本の自然環境・歴史・風土に立脚して、地域力向上のきっかけとなり、自然災害から復興する熊本の姿を伝え、市民が協働する社会の実現につながることを目指した。
共同企業体は、それぞれが蓄積したノウハウや地域精通度を生かして会場設計、監理、運営に取り組んだ。これらの活動は、設計・デザインにとどまらず、多様な主体が参画する事業のプランナー・コーディネーターを務めて、博覧会の事業推進に大いに貢献した。閉幕後、熊本市では博覧会をきっかけとしたまちづくりの準備が進められている。
コロナ禍において緊急事態宣言による行動制限のなかで、三者は連携して業務を遂行した。博覧会を契機とする地域づくり事業において、ランドスケープデザイナーの力を世に示した仕事であると評価され、特別賞となった。



①熊本県産の花々が競演した花風景【水辺エリア】 ②熊本城へ続くニコライ・バークマン氏監修の街なか花壇【街なかエリア】 ③西日本最大のアーケードに展開した花と緑の休息【街なかエリア】 ④熊本県産切り花による「花のトンネル」制作 ⑤匠の技を競う庭園コンテスト【水辺エリア】 ⑥沿道に彩る子供たちの花緑【水辺エリア】 ⑦都市の貴重な緑の顕在化【まち山エリア】



奨励賞



鳥瞰図



①上段と中段を一体的に結んだ斜面遊具 ②斜面遊具で遊ぶ子どもと見守るお父さん ③かつてはこの空に、富士山と豊島園の花火が見えた ④⑤ツツジ類の名所化を図る

大谷口二丁目児童遊園

有限会社ブラネット・コンサルティングネットワーク
岡島秀子・岡島桂一郎・鎌原史英・北島千恵里
田中宏樹・高田大貴

板橋区立大谷口二丁目児童遊園はとても小さな公園です。急傾斜地にあり、多くが斜面と擁壁、そして階段で占められています。かつては富士山への眺望や豊島園の花火を楽しむ、地域の大切な広場でしたが、今はその眺望は失われ、利用は少なくなりました。しかし、『公園を使いこなす』ことが求められている現在、身近な小公園こそ日常的コミュニティの核とならなくてはなりません。

利用されない中段広場及び斜面地活用のため、斜面遊具（滑り台）と散策路で、上段と中段を一体空間としてつなげ、斜面遊具の滑り口からは、空が広い、開放感のある景観を楽しめるようにしました。中段広場の健康遊具は、斜面遊具を楽しむ子ども達を見守りながら、お父さんやお母さんが利用できます。

また、4月中旬～5月上旬の花の名所化を図るため、江戸園芸ツツジやシャクナゲを加え、ツツジ山とし、高木には紅白のハナミズキを多用し、新しい利用価値を吹き込む改修設計としました。

改修整備

作品概要

作品名—— 大谷口二丁目児童遊園 改修整備
所在地—— 東京都板橋区大谷口二丁目63番5号
発注—— 板橋区土木部みどり公園課
設計—— 有限会社ブラネット・コンサルティングネットワーク
協力—— 長谷川測量株式会社東京営業所(測量)
有限会社樹工房(鳥瞰図作成)
監理—— 板橋区土木部みどり公園課
施工—— 重工業株式会社
設計期間—— 令和 元年7月～令和 2年3月
施工期間—— 令和 2年7月～令和 3年3月
規模—— 1,665m²
主要施設—— 53段階(既存+更新)、斜面遊具、健康遊具、
既存遊具(幼児用滑り台(移設)、シーソー(移設)、低鉄棒(更新))、
4種類のベンチ、ツツジ類の植栽

作品評

今日、児童遊園や小規模な街区公園は、幼児・児童数の減少や使いづらさ、施設の老朽化などから利用者が減少し、存在感が低下しているものも多い。

本作品もそうした問題を抱える「利用度の低い公園」であるが、応募者は「使われる公園にする」という明確な目標を立て、「特徴的な遊び場をつくる」、「高齢者の健康づくりの場とする」、「地域住民の集いの場とする」、「花の名所をつくる」などの方針に沿った動線・施設・植栽の全面的な改修を進め、一体感のある利用しやすい公園空間を実現させている。

こうした試みは分析不足などから十分な成果が得られていない事例も多いが、この公園は利用者数が大きく増え、身近な公園の存在価値を高めた事例として評価できる。

しかし、説明資料のまとめ方などにももう少し工夫が欲しかったなどの意見もあり、奨励賞となった。



奨励賞



豊四季台団地(建替) 第IV期エリアのランドスケープデザイン

株式会社総合設計研究所
志村勝・石井ちはる・武田栄文・前川和美
独立行政法人都市再生機構
有本幸代・佐藤浩幸・大崎貴弘・稲葉慈
山・集研設計共同体
照沼博志・佐藤文照・山本慶三・平田智隆

豊四季台団地は、団地再生事業において「環境共生の魅える化 ECO プロジェクト」を重点テーマに置いた建替を進めてきました。第IV期エリアでは、広域的な水と緑のネットワークに貢献する豊かな緑環境と雨水涵養のシステムの実現に重点をおいて、団地内外と連続する環境と既存樹木の保全、野馬土手等の地域特性を生かした空間構成などを目指しました。また、団地全体の歩行動線の導入部にあたることから、建替エリアを印象付ける象徴的な空間デザインとし、動線と一体的な開かれた空間とすると共に建築との中間領域を充実させ、居住者の暮らし方が表出するアウトドアリビングとしての屋外環境づくりを行いました。

作品概要

作品名—— 豊四季台団地(建替)第IV期エリアのランドスケープデザイン
所在地—— 千葉県柏市豊四季台二丁目
発注—— 独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
設計—— 株式会社総合設計研究所、独立行政法人都市再生機構、
山・集研設計共同体
設計協力—— 氏デザイン株式会社(サイン計画)、三戸久美子(樹木医)、
株式会社清水達也ランドスケープ(基本計画)
監理—— 株式会社URリンケージ
施工—— 株式会社東松園、株式会社奥村組、株式会社長谷工コーポレーション
設計期間—— 2018年9月～2022年2月
施工期間—— 2020年12月～2022年3月
規模—— 敷地面積 約18,400m²
主要施設—— S字通り、中庭空間、まちかど広場、ランドマークツリー、
コミュニティデッキとファニチャー、四季のみち、保存緑地休憩施設、
ECOプロジェクトサイン、豊四季カラーアイテム、築山 他

作品評

本作品は、昭和30年代に建設され40年以上が経過する大規模団地を段階的に建替えている豊四季台団地第IV期エリアのランドスケープデザインの取組である。この団地再生では、「環境共生の魅える化ECOプロジェクト」をテーマとし、広域的な自然環境とネットワークする屋外環境の保全及びECOな暮らしを誘導するハード・ソフト両面に取り組んでおり、産官学連携事業の高齢者対策や子育て施設との連携など、様々な活動が団地内で展開されている。

第IV期エリアでは、ECOプロジェクトのデザインとして、地形の記憶である野馬土手や保存木を中心に、特徴ある印象的な景観と環境共生に配慮した中庭空間を創出している。また、住棟と屋外のシームレスなデザインなどにより、自由度が高い遊び場や憩いの場など、コロナ禍での屋外を利用した多様な暮らし方が表出するアウトドアリビングを具現化している。惜しまれる点は整備から間もない応募であり、屋外環境での居住者の過ごし方や様々な活動の醸成が望まれることから、団地再生の今後の展開を期待して奨励賞と評価された。



①湖面に15棟のトレーラーハウスが並ぶグランピング ②夕食は地元食材をふんだんに使ったバーベキューを用意 ③地元作家による雑貨やフードが集うマルシェ ④町産の米粉を使った人気の高根沢ジェラート

道の駅たかねざわ 元気あっぷむら

株式会社塚原緑地研究所

塚原道夫・山本絢哉・阿久津和男・戸塚有介・金井拓見・一宮義行

栃木県内25番目の道の駅として2020年にリニューアルした「道の駅たかねざわ 元気あっぷむら」。前身である「元気あっぷむら」は、1997年に温泉施設としてオープンしたものの、経営難が続き2019年に当時の指定管理者が撤退した。当社は道の駅として登録された本施設の指定管理者に選定され、経営再建に取り組んでいる。

再建にあたり、開業前はリニューアル事業の設計監修の立場から施設計画・設計において指導・助言を行った。運営面では本施設の再生ビジョンを示して、町内の農家、商工事業者、観光事業者、クリエイター等と連携しながら魅力ある施設づくりに努めている。コロナ禍で消費者行動が変化するなか、コンセプトである「行きたくなる場所、ここにしかない空間」を体現すべく試行錯誤を繰り返しながら様々な取り組みを行っている。

作品概要

作品名—— 道の駅たかねざわ 元気あっぷむら
所在地—— 栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎588-1
発注—— 高根沢町
管理運営—— 株式会社塚原緑地研究所
協力会社—— 株式会社baobab、有限会社伊澤いちご園
規模—— 18.4ha
設計—— 株式会社フケタ設計、株式会社酒井建築設計事務所
施工—— 株式会社熊谷組、渡辺建設株式会社、竹石建築株式会社
期間—— (設計監修)令和元年5月1日～令和2年3月31日
(管理運営)令和2年4月1日～令和7年3月31日
主要施設—— ・温泉ゾーン:温泉、レストラン、売店、多目的ホール、宿泊棟、研修室、大広間、等
・食のゾーン:農産物直売所、農産物加工施設、レストラン、体験学習施設 炭焼き窯 等
・池のゾーン:親水公園、グランピング
・森のゾーン:自然の森、遊歩道
・道路休憩ゾーン:道の駅情報提供施設、トイレ

作品評

この業務は、ランドスケープコンサルタントが公共施設である「道の駅」の指定管理事業に参入し、指定管理者として経営不振の施設を再建に導いたものである。応募者はコロナ禍という困難な状況の中で施設の営業を再開させ、「利用者ターゲットの絞り込み」、「新たなイベントの開催や情報発信」、「地域資源の活用」というコロナ後を見据えた3つの施策に取り組み、温泉施設・宿泊棟・グランピングなどの整備を行って、稼働率を7割にまで回復させるという大きな成果を上げている。マネジメント部門には、目標・課題への対応力、地域社会との連携、業務の遂行に向けた独創性や新規性などの評価項目があり、本業務はそれらに対して十分評価できる内容が盛り込まれているが、審査資料の表現や構成に改善の余地があるとの指摘もあり、奨励賞となった。

CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA賞選考委員会委員長 工学院大学教授 篠沢 健太

CLA賞はランドスケープ分野のプロフェッショナルであるCLA会員が行った仕事を評価し、優れた作品や優秀な業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたものです。応募者にとっては、実施した業務の成果を改めて応募資料にとりまとめるにあたり、自ら業務を再チェックし、その品質を自己確認する機会でもあり、今後の業務の品質保証やさらなる展開につなげることが期待できると考えます。

本年度は、2022年4月上旬から募集を開始し、7月末に締め切った結果、「設計」「調査・計画」「マネジメント」の3部門に13社から17作品を応募いただきました。コロナ禍の状況にもかかわらず、皆さまからの積極的な応募をいただきましたこと、応募された皆さまに厚く御礼申し上げます。また、会員各社ならびに技術者の皆さまには応募作品をご覧いただき、より一層の研鑽のきっかけとなることを期待する次第です。

CLA賞の選考は、提出されたA4用紙1枚の「作品概要票」と、A3用紙5枚の「作品説明資料」のみを元に行っています。選考委員が現地に赴くことはありません。委員は各自、事前に配布された応募作品資料について、募集要綱に示された部門ごとに5つの視点に基づいて評点を付け、それらを選考委員会までに集計しました。選考委員会ではこの集計結果を参考に、改めて作品ごとに賞にふさわしいかについて討議しました。本年度は、最優秀賞2作品、優秀賞4作品、特別賞3作品、奨励賞3作品を選出しました。

設計部門と調査・計画部門の最優秀賞は、業務の成果はもとよりその説明資料が優れていたことで高い評価を受けました。優秀賞を受賞された4作品も同様です。一方で、説明資料では十分な評価が受けられなかったものの、作品の社会的意義とか技術的先駆性などの評価から特別賞の3点が選出されました。更に、現在の社会のニーズに応え、これからの発展が期待されている業務に対して、奨励賞が3点、選出されました。

今回ご応募いただいた作品はいずれも優れた作品ぞろいで、造園・ランドスケープの技術を駆使して社会的課題に真摯に取り組む姿勢が表れていました。私は、本年度よりCLA賞選考委員会委員長を拝任しましたが、日本全国にこうした空間が生まれていることを非常に嬉しく思っています。その中でも、受賞作品と選から外れた作品の差はほとんどがプレゼンテーションの質の差であると考えます。

先に述べたように、本賞の選考にあたっては委員会は現地調査を行いません。おそらく現地で見れば、説明資料以上に素晴らしい応募作品もあったかとは思いますが、しかし本賞では、「自らの提案をお客様や社会に対して解りやすく説明するコンサルタントとしての能力」も評価の大きな対象となっているの

です。

作品の社会的意義や技術的先駆性などを言葉で表現するのはもちろんのこと、設計者が託された課題をどのように把握し、課題解決のためにどのように提案を導いたのか?その内容を限られた資料の中に適切に表現することもまた、本賞の評価対象です。

本年度は例年に比べて完成した作品や利用の状況を「引き」で捉えた写真が多く、提案内容について(文章や全体平面図などでの説明はあるものの)それを具体化する際に試行錯誤し、専門的に検討した内容を表現した断面図や詳細図等が少ないように感じました。選考委員もまたプロフェッショナルです。資料をめくるたびにその業務に対する共感や、対応についての納得が得られるような作品説明資料が、調査・計画部門でもマネジメント部門でも結果として高い評価を受けたのだと思います。

社会に対してランドスケープ・アーキテクトという職能をアピールしていくためには、良質なランドスケープ作品を世に送り出し、なおかつ社会に適切にアピールしていくことが必要だと考えます。CLA賞が単なる顕彰制度にとどまらず、会員企業や技術者の皆様のランドスケープコンサルタントとしての技術力向上につながることを願って、選考結果のご報告とさせていただきます。

作品の応募と選考結果

部門	応募	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設計	12点	1点	4点	1点	2点
調査・計画	4点	1点	該当なし	2点	該当なし
マネジメント	1点	該当なし	該当なし	該当なし	1点
計	17点	2点	4点	3点	3点

選考委員会

委員長	篠沢 健太	工学院大学 教授
副委員長	内藤 英四郎	CLA 監事
委員	石井 ちはる	CLA 技術委員長
委員	伊藤 康行	国土交通省都市局 公園緑地・景観課課長
委員	卯之原 昇	(一社)日本造園建設業協会 資格制度委員長
委員	浦田 啓充	(一社)日本公園緑地協会 常務理事
委員	木下 剛	千葉大学大学院 准教授
委員	塚原 道夫	CLA 広報委員長
委員	諸井 泰司	全国1級造園施工管理技士の会(一造会) 技術部会長

飯沼安裕 (いひぬまやすひろ)

1966年 大分県生まれ
1991年 東京工業大学電子物理工学科卒業
1994年 同大学建築学科卒業
1994～1998年 山田守建築事務所
2007年～三菱地所設計／現在、リノベーション設計部シニアアーキテクト
主な作品に大手町ビル・リノベーション、東京セントラル表参道ビル改修、麹町311ビル改修

倉田香織 (くらたかおり)

神奈川県出身。文化服装学院ファッション情報科卒業、(有)成城スタジオなどを経て、2016年、愛植物設計事務所入社。現在は、いろいろな植栽管理の指導業務のほか、公共事業や民間事業のランドスケープ業務のサポートなどを担当している。

荒井拓州 (あらいたくしゅう)

1975年 神奈川県生まれ
1999年 東京工業大学工学部建築学科卒業
2002年 同大学大学院修士課程修了
2002年～三菱地所設計／現在、デザインスタジオチーフアーキテクト
主な作品に大手町ビル・リノベーション、香月メディカルビル、東北大学片平キャンパスWPI-AIMR本館、JAビル、愛知万博三菱未来館、日本海事協会横浜支部

橋本 恵 (はしもとめぐみ)

京都府出身。調査計画部チーム。高知大学大学院理学研究科修了。同年、愛植物設計事務所入社。「都立公園多様性業務」では調査や計画策定に関わる。主な仕事に「中杉通りケヤキ並木」の管理計画や「環境省植生図」、「丹沢溪畔林」などの調査などに携わる。

山野秀規 (やまのひでき)

1972年生まれ、神奈川県出身。1994年明治大学農学部卒業、同年、愛植物設計事務所入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、RCCM (造園)。近年の主な担当業務として「ダイキン工業アレス青谷植栽計画」、「パークシティ浜田山植栽計画」「TRI-7六本木ランドスケープ設計」「都立公園の生物多様性保全整備設計」などに携わる。

鈴木美枝子 (すずきみえこ)

山梨県出身。千葉大学園芸学部卒業、ブダベストコルヴィナス大学ランドスケープ学部庭園芸術学科修士課程修了。2017年、愛植物設計事務所入社。近年の主な担当業務として「ダイキン工業アレス青谷植栽計画」「赤塚公園生物多様性保全整備実施設計」「立石さくら通り道路改修計画策定」などに携わる。

山本紀久 (やまもとりのひさ)

1940年生まれ。1963年東京農業大学造園学科卒業後、第一園芸造園部入社。東洋造園土木移行後、1973年愛植物設計事務所設立、現会長。「東京ディズニーランド」「沖縄総合運動公園」など、植栽設計～監理までの一貫した関りを重視。日本造園学会賞：調査計画部門 (1982)、「造園植栽術」著作 (2015) / 上原敬二賞 (2019) / 日本造園学会賞マネージメント部門 (2020)。技術士 (建設部門)、RLAフェロー。

浦澤柚花 (うらさわゆづか)

埼玉県出身。2020年に東京農業大学地域環境科学部造園科学科卒業、同年、愛植物設計事務所入社。主な担当業務として、「日本工業大学キャンパス (植栽管理業務)」「十和田済誠会病院 移転新築計画 (植栽基本設計)」「埠頭シンボルプロムナード公園花修景 (設計・監理)」などに携わる。

福留正雄 (ふくどめまさお)

1967年神奈川県生まれ。1991年千葉大学園芸学部造園学科卒業、2000年ヘッズ入社。現在、同社東京本社ゼネラルマネージャー。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。技術士 (建設部門)。千葉大学非常勤講師。主な業務：飯館村復興拠点整備計画・設計。新地駅周辺津波防災拠点中心地区施設設計。伊豆市防災公園設計等。

加藤 修 (かとうおさむ)

1960年宮崎県生まれ。1984年千葉大学園芸学部造園学科卒業、同年大塚造園設計事務所 (現ヘッズ) に入社。現在、株式会社ヘッズ東京本社代表取締役。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。技術士 (建設部門)。武蔵野美術大学・東京造形大学講師。主な業務：国際花と緑の博覧会、浜名湖花博 会場計画・設計 等。

矢吹克美 (やぶきかつみ)

1962年神奈川県生まれ。1987年大阪芸術大学環境計画学科卒業、同年大塚造園設計事務所 (現ヘッズ) に入社。現在、同社東京本社チーフデザイナー。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。自然再生士。主な業務：浜名湖花博花の美術館 (モネの庭) 実施設計。葛飾にいじゅくみらい公園実施設計 等。

加藤茂男 (かとうしげお)

1969年愛知県出身。1993年千葉大学園芸学部造園学科卒業、1995年ヘッズ入社。現在、同社東京本社シニアデザイナー。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。技術士 (建設部門)。自然再生士。主な業務：全国都市緑化フェアTOKYO (井の頭) 会場計画。上海万博・上海民企連合館ランドスケープ設計 等。

浦川忠郎 (うらかわただお)

1978年神奈川県生まれ。2001年日本大学生物資源科学部植物資源科学科卒業、同年アゴラ造園株式会社入社。現在、同社工事事務1課課長。一級造園施工管理技士、一級土木施工管理技士、一級造園技能士。主な業務：(仮称)練馬区立中村中央公園他整備工事、船橋市アンデルセン公園地域交流ゾーン他整備 (その2) 工事 等

清水誠大 (しみずまさひろ)

1981年愛媛県生まれ。2004年千葉大学園芸学部緑地・環境学科卒業、同年アゴラ造園株式会社入社。造園工事、剪定枝リサイクルの担当を経て、現在、同社工事事務1課主任として植栽管理業務に携わる。一級造園施工管理技士。一級造園技能士。主な業務：戸定邸庭園復元工事、仮称練馬区農の学校中核拠点施設整備工事 等

西辻俊明 (にしつじとしあき)

技術士 (都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。1979年大阪府立大学農学部農業工学科緑地計画研究室卒業。1991年：株式会社 現代ランドスケープ設立 (主要作品・仕事) シャレール東豊中森のコミュニティデザイン (グッドデザイン賞) / 大阪中之島公園 (造園学会賞、土木学会景観デザイン賞最優秀賞、グッドデザイン賞) / ローズプレイス瀬田唐橋 (グッドデザイン賞受賞) 他

北川明介 (きたがわあきすけ)

1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。(株) グラック代表取締役。市街地内の既存緑空間の利活用や再生プロジェクトに多数関わっている。CLA賞「水郷佐原あやめパーク、東京経済大学新次郎池」等多数受賞。

井野貴文 (いのたかふみ)

群馬県高崎市出身。2009年東京農業大学造園科学科、東京工科大学建築学科卒業。同年、(株) グラック入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。都心から田舎、海から山、公共事業から民間事業、街区公園から国営公園などの多様な場の設計に携わっている。CLA賞「横浜市庁舎緑化再整備」優秀賞を受賞。

家本 智 (いえもとさとし)

1982年大阪市生まれ。大阪府立大学大学院生命環境科学研究科修了。現在は(株) 空間創研に所属し、主に遺跡や公園緑地、建築外構、植栽の計画・設計・デザインに携わる。

岸田 敏 (きしださとし)

大阪府出身。神戸大学農学部植物防疫学科卒。1973年(株) 環境事業計画研究所大阪事務所勤務。1980年に株式会社地球号設立。現在、取締役を務めると共に神戸事務所長として公共公園を主体とした造園計画設計に携わる。技術士 (建設部門都市及び地方計画)、一級造園施工管理技士。

村松雄一郎 (むらまつゆういちろう)

1971年静岡県生まれ。株式会社オオバ大阪支店まちづくり部ランドスケープ課専門課長。作品 ■ 淡路夢舞台「百段苑」植栽デザイン、京都小倉百人一首歌碑建立事業、大阪府営久宝寺緑地「まいまい広場」、「もくもく元気広場」、亀岡駅北駅前広場「かめきたサンガ広場」、加西市鶴野飛行場跡整備・soraかさい、友ヶ島砲台跡整備計画

西山秀俊 (にしやまひでとし)

1992年東京農業大学造園科学科卒業。2000年(株) グラック入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。JLAU常任理事。公園・緑地のマネジメント、ランドスケープ事業の推進に関するマネジメント等に関わる。時代を見据えたランドスケープアーキテクトの職能を拡げることを目指して活動中。

荘田隆久 (しょうただかひさ)

1972年大阪市生まれ。1994年京都嵯峨美術短期大学環境デザイン学科卒業。現(株) 空間創研取締役。主に集合住宅から商業や医療、教育施設、公園など、多岐にわたる屋外空間の計画・設計・監理に携わる。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、RCCM (造園)。CLA関西支部広報委員長。

和田 威 (わだつよし)

1962年大阪府の最南端、岬町生まれ。1986年大阪工業大学工学部建築学科卒業。同年、株式会社地球号に入社。現在に至る。主に公園の実施設計業務、民間集合住宅プロジェクトを担当。趣味は釣りや菊作り。安満遺跡公園の設計業務においては、主に道路設計、施設整備の実施設計を担当した。

山本和光 (やまもとかずみつ)

山口県出身。1994年中央コンサルタンツ株式会社入社。大阪支店技術部長。近畿圏を中心に、国土交通省や自治体発注の都市公園の調査・計画・設計に従事。近年では民間活力導入調査・検討 (P-PFI) 業務に携わる機会も増えている。

岸井悠子 (きしいゆうこ)

2005年東京農業大学造園科学科卒業。同年、(株) グラック入社。主に公園緑地の計画・設計に従事。現在、地のランドデザイン、個人邸の庭等を担当。土地の魅力をひきだし、地域の人々に愛され続けるランドスケープデザインを目指しています。CLA賞「水郷佐原あやめパーク、東京経済大学新次郎池」等受賞。

多田祥子 (ただしょうこ)

1984年生まれ。同志社大学文学部卒業後、大阪工業技術専門学校建築学科II科卒業。現在は(株) 空間創研に所属。公園や建築外構、植栽のデザイン・設計に携わる。人の居場所づくりや親子のためのランドスケープ、四季の草花を楽しむランドスケープに興味がある。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。

上田 仁 (うえだひとし)

1975年生まれ。京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修了。学生時からアルバイトで出入りしていた株式会社地球号にそのまま入社、現在に至る。右投げ両打ち。

柴田誠司 (しばたせいじ)

長崎県長崎市出身。2003年徳島大学建設工学科卒業。同年中央コンサルタンツ株式会社大阪支店入社。都市公園の調査計画・設計、地元住民ワークショップによる公園設計、施設長寿命化計画策定などの業務に携わる。

藤田芽衣 (ふじためい)

2018年東京農業大学造園科学科卒業。同年、(株) グラック入社。主に公園緑地の計画・設計に従事。現在、フィールドアスレチックを有する大規模公園の再整備の設計監理を担当。自然にあるものを活かし、空間を価値づけることができるランドスケープアーキテクトを目指し日々精進中。CLA賞「東京経済大学新次郎池」受賞。

立花正充 (たちばなまさみつ)

1951年神戸生まれ。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。梅小路公園+朱雀の庭などの公園整備、唐古/鍵遺跡・安満遺跡などの史跡関連整備、新町川水際公園・鴨川関連の整備などの河川や道路の環境整備、京都市観光案内標識アップグレード指針などのデザインガイドラインの策定など様々な分野の業務に携わる。21年5月、永眠。

上田哲生 (うえだてつお)

1968年京都市生まれ。京都工芸繊維大学工芸科学研究科造形工学専攻修了。同年、株式会社オオバ入社。現在、大阪支店まちづくり計画部長として、まちづくりをベースとした各種マスタープラン策定、施設計画設計、空間計画設計、官民連携事業等に従事。技術士 (総合技術監理・建設部門)、一級建築士。

長崎浩紀 (ながさきひろき)

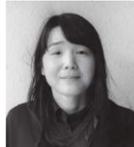
1983年大阪府生まれ。2006年徳島大学建設工学科を卒業。2008年徳島大学大学院環境創生工学専攻を修了し、同年中央コンサルタンツ株式会社に入社。主に、国土交通省や自治体発注の都市公園に係る調査・計画・設計・管理運営計画や道路植栽に関わる計画・設計の業務等に携わる。

北伸一郎 (きたしんいちろう)

1972年兵庫県生まれ。2002年株式会社INA新建築研究所入社。現在、執行役員 西日本支社長。

村井俊彦 (むらいとしひこ)

1975年兵庫県生まれ。2007年株式会社INA新建築研究所入社。現在、西日本支社 プロジェクトマネージャー。2015年から高槻市安満遺跡公園パークセンター棟他付属各棟の設計・監理を主任技術者として従事。本公園でのその他受賞歴は以下の各賞。
・令和元年おおさか環境にやさしい建築賞受賞
・2022年照明施設賞受賞
・2022年照明デザイン賞受賞

谷口桃子 (たにぐちももこ)

2014年株式会社INA新建築研究所入社。現在、西日本支社 意匠設計者。2015年から高槻市安満遺跡公園パークセンター棟他付属各棟の設計・意匠監理を担当者として従事。本公園でのその他受賞歴は以下の各賞。
・令和元年おおさか環境にやさしい建築賞受賞
・2022年照明施設賞受賞
・2022年照明デザイン賞受賞

澁江章子 (しぶえあきこ)

1987年、九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。2016年、京都造形芸術大学大学院 環境デザイン領域・日本庭園分野修了。2016年、株式会社エスティ環境設計研究所の代表取締役就任。一級建築士/技術士(都市及び地方計画)/技術士(総合技術監理部門)/登録ランドスケープアーキテクト(RLA)

後藤逸成 (ごとういつなり)

1973年愛知県生まれ。1995年株式会社空間創研入社。現在、同社代表取締役。近年は主に都市公園の計画・設計・施工時の発注者支援のほか、全国都市緑化フェア(奈良、鳥取、信州、熊本)の事業計画から現場監理までの一連の業務に従事。技術士(建設部門:都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

野見山志帆 (のみやましほ)

1997年九州芸術工科大学芸術工学部卒業、鴨川公園の整備や大学キャンパス計画、観光案内サイン整備計画などに関わる。現在は空間創研に所属。キャンプやピクニックなどを通して、緑や自然に気軽に親むことが好き。子どもと一緒に、おとも楽しめる、遊べる公園づくりを目指して情報収集中。

山川弘子 (やまかわひろこ)

1981年生まれ。岐阜大学大学院工学研究科土木工学専攻修了。大学院で都市景観評価を研究。河川計画、河川環境調査などの建設コンサルタント業務を経験して一念発起。現在は㈱空間創研に所属。全国都市緑化フェアや公園設計に携わっている。水辺のランドスケープづくりに興味がある。技術士(建設部門)。

徐蓉 (ジョヨウ)

中国広西チワン族自治区出身。中国の大学でランドスケープデザインを学び、2014年日本へ留学。2018年京都工芸繊維大学大学院建築学専攻に入学し、まちづくりに関する研究を行った。2019年大学院卒業。同年㈱空間創研入社。

井口直 (いのくちすなお)

2007年、琉球大学環境建設工学科卒業。2009年、熊本大学大学院自然科学研究科修了。2011年、株式会社エスティ環境設計研究所に入社。公園や緑地、文化財、庭園などの外部空間を対処とした計画・設計に携わる。主な作品として、水上公園、崎津・今富の文化的景観整備など。

森永咲 (もりながさく)

2013年、熊本大学大学院自然科学研究科修了。建設コンサルタント勤務を経て、2017年、株式会社エスティ環境設計研究所に入社。入社後は、公園や緑地、文化財に関する計画・設計やまちづくり、指定管理公園の活用などに携わる。

平瀬祐子 (ひらせゆうこ)

1975年東京都生まれ。1999年早稲田大学理工学部建築学科卒業。2001年早稲田大学大学院修士課程修了。藤江和子アトリエ・HHF architects(在スイス)を経て、2008年～yHa architects。

平瀬有人 (ひらせゆうじん)

1976年東京都生まれ。1999年早稲田大学理工学部建築学科卒業。2001年早稲田大学大学院修士課程修了。古谷誠章研究室・ナスカ・早稲田大学助手を経て、2007年～yHa architects。2007～08年文化庁新進芸術家海外留学制度研修員(在スイス)。2008年～佐賀大学准教授。博士(建築学)。

丸山幸 (まるやまゆき)

1979年熊本県生まれ。2000年東農業大学短期大学部環境緑地学科卒業。同年、株式会社大揮環境計画事務所入社。都市公園や緑地の計画・設計、ターミナルビルなど建築外構空間の設計業務に携わる。各地のランドスケープ作品や動物園空間、工事現場の観察を楽しみ中。

亀井菜々美 (かめいななみ)

2021年西日本短期大学緑地環境学科卒業。2021年株式会社大揮環境計画事務所へ入社。入社後は、公園緑地の設計や個人住宅の外構設計に携わる。

小林真幸 (こばやしまさき)

1977年長野県生まれ。2003年千葉大学大学院自然科学研究科修了。同年㈱公園緑地設計事務所(現KRC)入社。現在、地域計画室室長。認定NPO法人日本都市計画家協会理事。主に自治体の総合計画や都市計画、土地利用や景観、緑の計画・制度の立案に従事。技術士(建設部門・農業部門・総合技術監理部門)、公園管理運営士。

田口ちはる (たぐちちはる)

1973年長野県生まれ。1997年京都芸術短期大学(現京都芸術大学)専攻科(日本画コース)修了。1998年㈱公園緑地設計事務所(現KRC)に入社。信州の公園・緑地の調査・計画・設計に従事。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。北信美術会会員。

松下美紀 (まつしたみぎ)

照明デザイナー・博士(人間環境科学)1989年松下美紀照明設計事務所設立。日本全国のプロジェクトへ参画し、重要文化財の照明デザイン・国立公園・まちの照明ガイドライン制作・教育施設・文化施設・医療施設・交通機関から商業施設まで幅広い分野の光環境を創出。福岡を中心に約4,000km圏内のアジア諸国の照明デザインも数多く手掛ける。

中村元彦 (なかむらもとひこ)

照明デザイナー・照明士1975年福岡県生まれ。1998年九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業。現在、株式会社松下美紀照明設計事務所 チーフデザイナー。主な業務経歴:各都市の街路空間や公園をはじめ、建築外構における魅力的な夜間景観創出のための計画及び設計業務に携わっている。

庄司雅之 (しょうじまさゆき)

1963年福岡県生まれ。1995年に㈱エスティ設計入社、2004年より代表取締役社長。これまで街のシンボルとなる良質な公共施設はもとより、医療・福祉・教育など、さまざまな建築物を構想の段階から参画。また地下鉄駅舎など交通施設の実績もあり。設備一級建築士、一級建築士、建築設備士。

鳥越宗樹 (とりこえむねき)

1974年福岡県生まれ。1995年㈱エスティ設計入社。主に公共施設の電気・通信設備の新築、改修や交通施設等の計画などの実施設計、監理業務に携わる。また災害時の備えなどBCPの立案計画なども行う。建築設備士、省エネ適合性判定員。

長峯史弥 (ながみねふみや)

1994年長野県長野市生まれ。2014年長野工業高等専門学校環境都市工学科卒業、2016年同生産環境システム専攻終了。同年株式会社KRC入社。地域計画室に所属し、主に都市計画関連の計画策定業務に従事。

三澤陽平 (みさわようへい)

1976年長野県生まれ。1998年中央工学校土木工学科造園景観専攻卒。同年㈱公園緑地設計事務所(現KRC)に入社。現在、常務取締役事業推進室室長として、主に公園緑地、都市緑化推進、まちづくりの企画・調査計画・設計に携わる。

田口義明 (たぐちよしあき)

1973年長野県生まれ。1997年豊橋技術科学大学大学院工学研究科(建設工学専攻)修了。1998年公園緑地設計事務所(現KRC)入社。長野県内外の公園・緑地、地域振興関連施設等の整備についての調査計画設計業務に従事。技術士(建設、環境、総合技術監理部門)。

亀山涼 (かめやまりょう)

2001年信州大学大学院農学研究科森林科学専攻修了。同年に株式会社KRC入社。長野県内の都市公園の整備等に関する調査・計画に従事。県民協働で花緑あふれる地域づくりに取り組む「信州緑花ネットワーク」の事務局を担当。長野駅前にて実施した2021、2022年夏のグリーンインフラ体験コーナーの設置に携わる。樹木医。

金子宏和 (かねこひろかず)

1974年福岡県生まれ。2014年㈱エスティ設計入社。建築物や屋外施設の空調換気・衛生・防災設備の新築、改修などの実施設計、監理業務に携わる。あわせて省エネ手段の最適化計画なども行う。建築設備士、省エネ適合性判定員。

大杉哲哉 (おおすぎてつや)

1982年東京農業大学造園学科、株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。公園計画設計、街なみ環境整備、道路修景設計、土地区画整理事業等の多様な業務に携わる。ワークショップを活用した住民参加に多くの実績を有する。現在代表取締役社長。技術士(建設部門)。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

福岡李奈 (ふくおかりな)

2019年西日本短期大学緑地環境学科卒業。2019年株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。入社後は、公園緑地の設計や文化財の計画策定、ワークショップの運営に従事。

安部あすか (あべあすか)

2000年福岡生まれ。2020年有明工業高等専門学校建築学科卒業。同年、株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。入社後は、調査業務や計画策定業務、ワークショップの運営に携わる。

岡島秀子 (おかじまひでこ)

昭和54年千葉大学園芸学部卒業。㈱京央造園設計事務所入社、公園の計画設計に携わる。その後異業種である商品開発等を手がけるが、「風景工房」を主宰して造園計画設計を続け、平成6年(有)プラネット・コンサルティングネットワーク取締役に就任し、公園緑地等の管理運営にも携わる。平成14年東京理科大学工学研究科修了。技術士(建設部門、環境部門)、RLA、公園管理運営士。

岡島桂一郎 (おかじまけいいちろう)

昭和55年千葉大学園芸学部卒業。㈱京央造園設計事務所入社、主に国営公園の実施設計及び現場監理に携わる。昭和60年(株)東京ランドスケープ研究所入社、造園計画設計を続け、平成6年(有)プラネット・コンサルティングネットワークを設立し、里山の公園緑地等の管理運営及び農業に携わる。技術士(総合技術監理部門、建設部門、環境部門)、樹木医等。

鎌原史英 (かんばんらふみえ)

平成元年筑波大学芸術専門学群環境デザイン専攻卒業。平成元年㈱東京ランドスケープ研究所入社、造園計画に携わり、平成10年(有)プラネット・コンサルティングネットワーク入社、公園緑地等の計画設計を行うとともに、公園緑地等の建築物の設計を担当する。ワークショップやイベント等のソフト業務を得意とし、公園緑地等の管理運営にも携わる。一級建築士。

北島千恵里 (きたじまちえり)

平成28年北里大学獣医学部卒業、(有)プラネット・コンサルティングネットワーク入社 千葉県佐倉市 佐倉草ぶえの丘指定管理者業務で管理運営に携わる。その後、管理運営とともに、公園緑地の調査から計画に取り組む。江戸川区一之江抹香亭管理運営委託業務責任者。測量士補。

田中宏樹 (たなかひろぎ)



平成24年東京電機大学理工学部卒業、㈱アーネストワン入社、住宅建設の設計及び監理に携り、令和元年(有)プラネット・コンサルティングネットワーク入社 UR都市再生機構団地環境整備(造園)設計や公園緑地の設計、公園緑地の建築物設計に取り組んでいる。剣道三段、2級建築施工管理技士。

高田大貴 (たかだたいき)



令和元年日本自然環境専門学校卒業、(有)プラネット・コンサルティングネットワーク入社 私立幼稚園・こども園の環境教育に携わる。その後、環境教育、管理運営とともに、公園緑地の自然環境調査(動物)から計画に取り組む。生物分類技能検定2級(動物)。

志村 勝 (しむらまさる)



1958年東京生まれ。1982年千葉大学園芸学部造園学科を卒業。同年㈱総合設計研究所に入社、現在に至る。公園及び集合住宅外構の計画及び設計に携わっている。代表作：越谷レイクタウン大相模調節池基本実施設計、葛西臨海公園改修設計、百合ヶ丘第二団地建替設計、豊四季台団地(第1期)建替設計など。

石井ちはる (いしちはる)



東京都出身。明治大学農学部卒業後、㈱総合設計研究所に入社以来、育児休業などを経て現在同社CLA1部部長。技術士(建設部門)、一級造園施工管理技士。造園学会賞設計作品部門、品質工学会論文金賞など受賞。今回はこれからの住まい方などを据えたランドスケープについて、多くの方々と共に考え協働できたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

武田栄文 (たけだしげひさ)



1965年秋田県生まれ。1991年㈱総合設計研究所に入社。主として、公園緑地、集合住宅外構、自然環境の計画・設計に従事。主な業務：造幣局地区防災公園基本設計、吉祥寺の杜緑地ワークショップ運営、柏市篠田防災公園設計など。

前川和美 (まえかわかずみ)



茨城県出身。建設コンサルタント会社を経て、2017年㈱総合設計研究所入社。CLA1部プロジェクトリーダー。1級造園施工管理技士。現在は主として団地の外構計画・設計、公園緑地等の業務に従事。

照沼博志 (てるぬまひろし)



1958年東京都生まれ。1985年芝浦工業大学大学院修士課程修了。1986年㈱山設計工房入社。2004年から同社代表取締役就任。2006年より芝浦工業大学非常勤講師。一級建築士。UR都市機構をはじめとした住宅団地の設計業務に多数従事。加えて、東日本大震災の復興住宅等の実績も多岐にわたる。今日的な「都市居住」のありようを探り、住宅空間へフィードバックするデザイン手法を得意とする。

佐藤文昭 (さとうふみあき)



1958年静岡県生まれ。1983年芝浦工業大学大学院修了。同年住宅・都市整備公団入社。以降、団地に代表される高密度居住集合の様々なPJにおいて建築設計部門の業務に従事。インハウスデザイナーとして居住環境の価値を向上させる「設計マネジメント・デザイン管理」が主な業務。2001年芝工大建築工学科「相田賞第4回受賞」。2016年株式会社集研設計入社。2017年代表取締役就任。

山本慶三 (やまもとけいぞう)



1971年東京都生まれ。1990年株式会社集研設計入社。主に集合住宅や事務所ビル等の新築～改修の計画・設計に従事する。場の特性を生かし、地域と調和した計画を基本に、その場に関わる人々が心地良いと感じられるような豊かな空間づくりを目指しています。

平田智隆 (ひらたともたか)



1979年福岡県生まれ。2003年芝浦工業大学大学院建設工学専攻終了。2009年芝浦工業大学地域環境システム専攻修了。博士(工学)。2010年より同大学PD研究員。2014年㈱山設計工房入社。東南アジア諸国でのフィールドワークに基づく「集まって住む」仕組みから得た知見をもとに、集合住宅設計への転換を試みる。東日本大震災時の復興住宅業務より設計業務に従事。近年では主にUR都市機構の団地建替設計業務、改修業務等に従事。

塚原道夫 (つかはらみちお)



1951年生まれ。造園建設会社を経て㈱塚原緑地研究所を設立し代表取締役就任。活動はランドスケープデザイン、ランドスケープマネジメント。公園、宿泊、温泉、道の駅など幅広い事業に取り組んでいる。公共施設を拠点として、「地域づくりの核となるランドスケープ」、「地域で活動するランドスケープデザイナー」を実践している。

山本絢哉 (やまもとじゅんや)



1978年生まれ。信州大学経済学部経済学科卒業後、PR会社や事業会社にて企画・編集・広報職に携わる。2020年に㈱塚原緑地研究所に入社後、道の駅たかねざわ 元気がつむむらに配属。企画マネージャーを経て現在は駅長として施設運営に従事。

阿久津和男 (あくつかずお)



1964年栃木県生まれ。国士館大学卒業後、化粧品会社にて主に物流や製造管理に携わる。栃木県にUターン後、宿泊業界に転職、ホテル・旅館の実務習得後、支配人として運営に従事する。現在、㈱塚原緑地研究所に入社してからは主に宿泊・温泉等、指定管理部門の運営に携わる。

戸塚有介 (とつかゆうすけ)



1961年生まれ。2021年3月にシャープ㈱定年退職後、同年7月、道の駅元気あつむら総務経理課マネージャーとして㈱塚原緑地研究所に入社。2022年4月より、本社関連業務を担当しながら、総務経理課と運営企画課の統合マネージャーとして、諸問題解決、業務クオリティの向上、業務効率の向上、スタッフの教育にあたっている。

金井拓見 (かないたくみ)



企画開発部門マネージャー。1976年群馬県生まれ。専門学校東京ビジュアルアーツ卒。印刷会社でデジタル技術責任者及びトレーナーとして従事。その後BBQ場の運営会社にて運営管理・開業準備に携わる。現在は㈱塚原緑地研究所にて主に新規施設の開業準備を担当。

一宮義行 (いちのみやよしゆき)



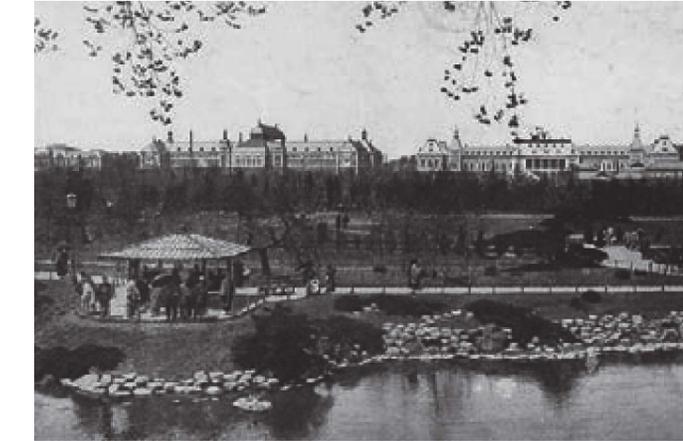
1970年生まれ。旅行、介護、アウトドア、運送業等の業界経験を経て、飲食業界にて起業後、㈱塚原緑地研究所に入社。入社は主に全社のマネジメント体制の向上、働き方改革を視野に入れたDX化を推進。サービス業に長く携わった経験から、利用者側に立った視点を重視しつつ従業員がゆとりをもって働ける職場を目指している。



住吉公園 (「写真の中の明治・大正」 国立国会図書館蔵)



日比谷公園の音楽堂 [明治42(1909)年] 『最新東京名所写真帖』 国立国会図書館蔵



日比谷公園 [東京風景] 国立国会図書館蔵

都市公園制度
150周年記念